

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	檜垣 ゆかり (ひがき ゆかり)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学部 健康福祉科学科 2023年3月卒業
発表年月 または事業開催年月	2024年 8月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本社会医学会総会・久留米大学医学部教育1号館
発表者(※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	檜垣ゆかり・岩垣穂大・扇原 淳
発表題目(※学会発表の場合のみ記載)	都市部集合住宅における壮年期・中年期住民の互助活動に関する研究
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>概要</p> <p>発表用ポスターは、卒業論文をもとに、卒業後1年5か月間研究を継続する中で、新たな発見も加筆して作成した。</p> <p>社会的孤独・孤立の問題が注目されている中、互助活動に注目し、都市部集合住宅を対象とした住民意識調査と合わせて、アクションリサーチの手法を用いてソーシャルキャピタルの醸成について検討した。住民意識調査は245人を対象とし144通の回答(59.6%)であり、結果としてソーシャルキャピタルは信頼、規範、ネットワークとも年齢層による差がなく、全体的に高く、他者への気遣いが多く見られた。また地域活動に期待することとして、「防犯防災への取り組み」が最も多く、男性の方が有意に女性より期待していた。高年期の社会的孤立は男性の方が多く、中壮年の時から地域参加が望ましいため、期待の多かった「防災」についてイベントとして行った。その結果、子育て世代の男性が子どもとともに参加した。考察として、活動の場の提供と、男性が主体的に活動することが必要であり、そういった仕掛けづくりを提供し続けることが必要であると考えた。</p> <p>https://conks.jp/socmed65/program.html</p> <p>成果</p> <p>2名からの質問があった。</p> <p>1つ目として、地区50年のマンションでは地域活動が活発なことも有り得るがどうなのか、と質問された。一棟のみの調査であり比較はできないが、婦人会、子ども会が活発であった時代からあるコミュニティとの差ではないかと考えるため、今後の課題とした。</p> <p>2つ目として、男性が防犯防災に関心が高いのはなぜかと質問があった。これに関しては無意識に男女での興味の違いにバイアスをかけていた自身に気づかされた。先行研究を再度確認しなおす課題とした。</p>	

※無断転載禁止